

黙示録 21 章 12 節-21 節 スタディーガイド

★ 黙示録 21 章 12 節-14 節

都には大きな高い城壁と十二の門があつて、それらの門には十二人の御使いがおり、イスラエルの子らの十二部族の名が書いてあつた。東に三つの門、北に三つの門、南に三つの門、西に三つの門があつた。また、都の城壁には十二の土台石があり、それには、小羊の十二使徒の十二の名が書いてあつた。

12 節「都には大きな高い城壁と十二の門があつて、それらの門には十二人の御使いがおり、イスラエルの子らの十二部族の名が書いてあつた。」
一般に、高い城壁は敵の侵入を防ぐためのものですが、新しいエルサレムには襲ってくる敵はありません。
神様のご臨在で輝いている、新しいエルサレムの威厳ある飾りと言えるものでしょう。
門に御使いがいるのは見張りのためではなく、恐らく人間に仕えるためです。

12 節「イスラエルの子らの十二部族の名」
新天新地に入ることができた人々全員が、アブラハム・イサク・ヤコブの神様に出会えたことを感謝します。

13 節「東に三つの門、北に三つの門、南に三つの門、西に三つの門があつた。」
十二の門が、新しいエルサレムを公平に取り巻いています。

14 節「都の城壁には十二の土台石があり、それには、小羊の十二使徒の十二の名が書いてあつた。」
土台は、福音を伝える基となった十二使徒の名前です。

★ 黙示録 21 章 15 節-17 節

また、私と話していた者は都とその門とその城壁とを測る金の測りざおを持っていた。都は四角で、その長さとは幅は同じである。彼がそのさおで都を測ると、一万二千スタディオンあつた。長さも幅も高さも同じである。また、彼がその城壁を測ると、人間の尺度で百四十四ペーキュスあつた。これが御使いの尺度でもあつた。

15 節「また、私と話していた者は都とその門とその城壁とを測る金の測りざおを持っていた。」

新しいエルサレムのサイズを測っています。

16 節「都は四角で、その長さとは同じである。彼がそのさおで都を測ると、一万二千スタディオンあった。長さも幅も高さも同じである。」

都の形が、ピラミッドのような形ではないかと考える人もいますが、都は荒野の幕屋の至聖所と同じ形で、真四角だと考えます。

長さも幅も高さも 1 万 2 千スタディオン、これは約 2220 km です。

北海道の海岸沿いを一周すると 2676 km です。

また、アメリカのカリフォルニアからアメリカ中央のカンザス州まで 2500km です。

一日 9 時間から 10 時間運転して約 3 日間の距離ですから、新しいエルサレムを車で一周するのに約 110 時間かかることになります。

高さも約 2220km ですから、地球から高く飛び出しています。

エベレスト山の標高が 8,848m で、新しいエルサレムの高さはエベレスト山の約 250 倍です。

17 節「また、彼がその城壁を測ると、人間の尺度で百四十四ペーキュスあった。これが御使いの尺度でもあった。」

城壁の高さは約 65m です。

★ 黙示録 21 章 18 節-21 節

その城壁は碧玉で造られ、都は混じりけのないガラスに似た純金でできていた。都の城壁の土台石はあらゆる宝石で飾られていた。第一の土台石は碧玉、第二はサファイヤ、第三は玉髄、第四は緑玉、第五は赤縞めのう、第六は赤めのう、第七は貴かんらん石、第八は緑柱石、第九は黄玉、第十は緑玉髄、第十一は青玉、第十二は紫水晶であった。また、十二の門は十二の真珠であった。どの門もそれぞれ一つの真珠からできていた。都の大通りは、透き通ったガラスのような純金であった。

18 節「その城壁は碧玉で造られ、都は混じりけのないガラスに似た純金でできていた。」
純金の色をしたガラスを想像できます。

19 節-20 節「都の城壁の土台石はあらゆる宝石で飾られていた。第一の土台石は碧玉、第二はサファイヤ、第三は玉髄、第四は緑玉、第五は赤縞めのう、第六は赤めのう、第七は貴かんらん石、第八は緑柱石、第九は黄玉、第十は緑玉髄、第十一は青玉、第十二は紫水晶であった。」

都の城壁は以下の通りです。

一段目：碧玉で、緑、赤、黄色のものがあるためどの色が使われているのか分かりません。

二段目：青のサファイヤ

三段目：緑の玉髄

四段目：緑の緑玉

五段目：赤縞めのうは、赤、茶色、黄色などが混じった縞模様

六段目：炎のように赤い、赤めのう

七段目：黄金色の貴かんらん石
八段目：緑の緑柱石
九段目：黄緑の黄玉
十段目：緑玉髓は、黄金の輝きを持つ緑色
十一段目：青色の青玉
最後の十二段目：美しい紫水晶

21 節「十二の門は十二の真珠であった。どの門もそれぞれ一つの真珠からできていた。」
一つの真珠です。想像し難いですが、神様は小さな真珠を貝の中に入れてくださったので、私たちにも想像できます。

モーセの律法では、貝類やエビなどは汚れた物とされています。
申命記 14 章 9 節で、水の中の物は、ひれとうろこのある物だけ食べることができるとされています。それゆえ真珠はユダヤ人にとって、あまり良い物とは考えられていません。

ではなぜ、門が汚れた物であるはずの真珠でできているのでしょうか。
イスラエルの民が、救い主イエス・キリストを知ったのは異邦人の伝道から始まっているからだと考えられます。

イエス・キリストの救いが、異邦人を通してやってきたことの印として、門は真珠でできていると考えられます。

21 節「都の大通りは、透き通ったガラスのような純金であった。」
永遠の神の都の大通りは、アスファルトではなく、最も美しい、聖なる金です。

◆MEMO◆



OMEGA MINISTRIES
ΩMEGA BIBLE STUDY